

町村合併以来の運営形態。 「施設の統合」と 「民間導入」が これからは必要だが…

報告書にある「統合」と「民間活力の導入」。一つの施策は市が昨年打ち出した行政改革大綱と第四次総合計画にも盛り込まれている。ただし、これは保育園に限ったことではない。学校教育、社会教育、文化など市政全般を見渡して、これからのまちづくりの基本的な姿勢だ。

前述のとおり、白根市は人口が同規模の市に比べて公共施設が多い(表)。それは町村合併からずっと続いてきた市の行政形態に起因する。

昭和三十年、市の前身である白根町が一町八カ村を合併する形で誕生。四年後に市政施行された。今から三十八年前のことである。その後、南北に長い地形に、白根町部を中心としながら八地区の集落が点在。それぞれの地域色を出しながら発展してきた。

当然ながら保育園などの公共施設が多くなる。学校はもちろん、公民館は十一もある。いろいろな面で運営効率の悪さが取り沙汰される。人件費、維持管理費がかさむ。老朽化した施設も多くあり、建て替えはままならない、修繕すら順番待ちの状態。財政状況の

悪化もこれと無関係とは言えない。ある母親は「言い方は悪いですが、ゆうれい屋敷みたいな保育園もあれば、ログハウスみたいな保育園もある。同じ保育料を払っているとはとても思えない」と言う。また「少子化が進んで、子供の数が極端に少ない保育園がある。そんな所は施設も老朽化してるし、事故も心配。早めに何とかした方がいいのでは」という意見もある。

反面、施設が多いことは白根市の良さでもある。きめ細かい住民サービスのためには公共施設が多い方がよい。小規模には小規模の良さがある。古くても小さくても、地域の人に愛され親しまれてきた施設は少なくない。そこから生まれる地域性、まともには大切なことだ。

ある母親は「古いなあとは思いますが、きちんと掃除は行き届いている。老朽化が進んでも、子供はそれなりに楽しく遊んでいる。少子化も進んで、統合という声もどこかで出たけれど、農村地帯では、おじいちゃん、おばあちゃんを送り迎えが多いのも事実。お年寄りの車の運転を考えると、白根市の保育園の設置は難しい問題だなあと感じますね」と話す。

「長所と短所は同居する」と言われる。合併以来、白根市が抱えてきたジレンマはここにある。

四年ほど前、白根保育園の建て替え

新しく全部建て直す必要もあるのかどうか。昔の保育園も、結構保育がしやすいようにできています。まずは子供にとって楽しいかどうかが大切ですね。そうやって、大人の考えの押し付けには警鐘を鳴らした。

次代の子供たちのため、 広い視野で 白根を見つめて

老朽化が進む保育園、子供が少なく存続も厳しい保育園など、市内の保育園はさまざま。それでも、地域の人は、それぞれの保育園に愛着と親しみを持って子供を通わせている。

高橋末江さんは、保育所検討委員会の会長として市内の保育園をあとこち見て回った。「確かに、定員が少ない施設もあり、老朽化している施設は多い。でも、地元では施設に愛着があつて、なかなか統合に踏み切れないという話も聞きました」と言う。

それでも、委員会では「統合」を今後の検討事項として掲げた。高橋さんは「小さくても、たくさんさんの施設があった方が、私たち住民にとって利便性が良いのは確かです。でも、それではどうしても人件費や維持費がかさんでしまいます。少子化が進む中、十年二十年先を見

越した統合を進めていくべきでしょう。そのためには、市が財政事情や情勢の変化を市民に理解してもらい、きちんと計画を立てて地域の人たちに納得してもらわなくてはなりません」と語る。

未来を担う子供たちを思い、広い視野に立つたまちづくりを高橋さんは展望する。そして、あえて市民の意識にも苦言を呈する。「いつまでも、自分の都合だけ考えていても世の中進歩しません。『近い方が便利』と強調する時代でもない。みんなが目の前のことだけにとらわれていたのでは、白根はちっとも良くなりませんよ。」

それぞれの地域に残る地区意識はもう要らないと、高橋さんは力を込める。「これからの白根市を考えるなら、地域エゴを打破しなければならぬ。ときには愛着さえも捨てていかなければならない。統合が行われて施設が遠くなれば、もちろん当座は不自由になります。でも、私たちが死んだ後の将来のことまでも考えなくては。見切るときは、たとえ憎まれても叩かれても、後で『ああ、良かった』と言われるようにしなければなりません。」

高橋さんの考えでは、今がそのときという。市議会議員であり、働く女性、そして母親でもある高橋さんは「人づくりをしていくことが、まちづくりにつながる」と考える。小さいときの人づく

■ 近隣同規模市の公共施設等の数 (平成7年公共施設状況調査・県総務部調べ)

市名	人口	市立保育園	その他の保育園	小学校	中学校	公民館
豊栄市	48,545人	12	4	10	5	5
五泉市	39,631人	12	0	9	4	4
燕市	44,194人	11	3	8	3	9
加茂市	34,621人	7	6	7	5	3
見附市	44,389人	11	4	8	4	6
白根市	39,012人	14	0	9	5	11

※白根市立保育園には、白連保育園、大郷児童館、鋳物師児童館を含みません。

※人口は平成7年3月31日の数値です。

が行われた。木造の古い建物は、モダンな保育園に生まれ変わった。当時、子供を預けていたある母親は言う。「子供は『前の感じが良かった』なんて言うんです。確かに古いからなるとかというの大人の意見です。子供は古いからいやだという感覚ではありません。建て直せばもちろんいいですが、少しずつ改善していく手もあります。」

りをしっかりとっておけば、白根市全体のレベルの向上にもつながるといふことだ。

「女性の高学歴化、少子化が進み、子育てに関する考え方も、今のお母さんたちは私たちのころと違っています。今は、子供の数が少なくなった分だけ幼児教育への関心が高まってきているようです。私の近所に住む小さい子供を持つお母さんたちからも、幼児教育を望む声がたくさん聞かれます。『三つ子の魂百までも』といいますが、子供というのは、小さいころにしっかりと育てておけば、次代に芽を出してくれるものです」と高橋さんは語る。

そんな次代のためにも、昔のままの考えではいけない。これは保育の問題に限らず、すべてのことについて当てはまる。市民、行政が一体となった意識改革が今、望まれている。



市へ中間報告書を手渡す。保育所施設等整備検討委員会会長の高橋末江さん。

